

びわ湖メッセ主催セミナー

(参加無料、申し込み制)

■新素材・セルロースナノファイバーがもたらす新たなビジネスの創造 17日後1時半 講師:北川和男・京都市産業技術研究所研究フェロー、後居洋介・第一工業製薬レオクリスタ開発グループ課長、中川芳和・服部商店淀工場長、大山雅寿・滋賀県工業技術センター有機材料係主査

■自動車革命がもたらす電子デバイスの劇的成長 18日後2時 講師:泉谷渉・産業タイムズ社長

■グリーン購入フォーラム2018 in滋賀「グリーン購入からみたSDGsの世界潮流~環境配慮型商品からESG投資まで~」19日後1時40分 基調講演:竹ヶ原啓介・日本政策投資銀行執行役員 事例報告:水森貴文・たねやグループSDGs推進課長

■関西SDGsキャラバン in滋賀×しが水環境ビジネスセミナー~アジアの水環境関連ビジネスと企業のSDGs活用~ 19日後2時 講師:飯田学・JICA関西企業連携課長、藤村直也・オプテックス企画2課長

※セミナーの詳細、申し込みはウェブへ。
<http://www.biwako-messe.com>

■びわ湖メッセ新企画■

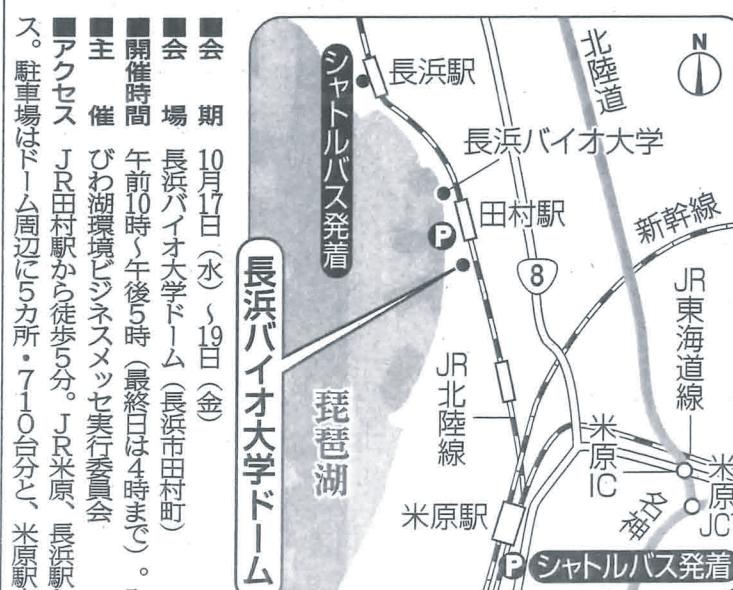
△ビジネスサポートコーナー 経営革新、販路開拓、技術開発などの相談や、特許など知的財産に関する相談など。

△「技術・新素材のエコ革命」特設ゾーン セルロースナノファイバー、電子デバイスの関連技術・製品を紹介

△SDGs特設コーナー 滋賀県や関連機関の取り組みを紹介。セミナーも4本開催。

■新卒採用支援企画■

企業ブースで、学生に対する企業説明を実施



会場 10月17日(水)~19日(金)
開催時間 午前10時~午後5時(最終日は4時まで)。入場無料
主催 びわ湖環境ビジネスメッセ実行委員会
アクセス JR田村駅から徒歩5分。JR米原駅から無料シャトルバス。駐車場はドーム周辺に5カ所・710台分、米原駅東口に600台分。

未来型企業の姿を探る



「セルロースナノファイバーはランニングシューズのクッション材にも採用されている」と説明する北川研究フェロー(京都市下京区・京都市産業技術研究所)

京都市産業技術研究所(京都市下京区)

夢の新素材、急速に実用化

木材や竹を材料にした新素材、セルロースナノファイバー(CNF)。この素材を用いたスポーツシューズが今年、発売された。従来品より軽量化と強度アップを実現させたという。百万分の1^ミの単位まで纖維を細かくし、樹脂を練り込んでできるCNFは熱による変形が少ない、表面積が広く脱臭効果が高いなど、さまざまな特性を兼ね備えた「夢の素材」。音響に優れたスピーカーや自動車や建築の部材、化粧品、電子関連など、多用途に導入されつつある。

京都市産業技術研究所は、2005年から京都大との共同研究で研究開発に取り組み、実用化へ貢献してきた。16年には京都大に試験プラントが完成、原材料から一気にCNFを製造する工程を開発した。「CNFはここにきて急速に実用化が進んできた」と北川和男・研究フェロー(64)は手応えを語る。

今回は、他の9企業・機関とともに特設ゾーンを設け、製造過程や製品などを紹介するほか、初日の17日にはセミナーを開催。企業に向けては製品化へのアドバイスや技術的なサポートを行う。「企業が持っているベースに、CNFをどう取り込めるか、相談に乗りたい」と北川研究フェローは話す。

(岩本敏朗)



大木工藝(大津市)

世界中で海洋汚染の原因となつているプラスチックごみ。この厄介者を高機能活性炭として資源に変える企業が大津市にある。電気自動車(EV)の部品などに使用される電極材としている。不純物の多いごみでも建材や土壤改良などに活用できる。

電極材を使うと、一般的なヤシ殻の活性炭よりも放電容量が大きく、機能面でも優れているという。最近は大手家電メーカーと自治体からの引き合いも増えてきた。大木社長は「やつと時代が追いついてきた。プラスチックごみを環境に優しい商材に変える技術を広げたい」と意欲を燃やす。(中塩路良平)

プラごみを加熱、活性炭に

国産木材で定温倉庫開発

国産の木材と独自の空調機器で省エネ性能を高めた定温倉庫システム「木冷蔵」を開発した。平塚一弘社長(54)は「高い断熱性と少ない消費電力で優れた温度管理ができる」と胸を張る。

国産の木材に「だわった住宅建築や家具作りを取り扱い、創業60年目。コメ農家から受けた「保冷用の倉庫を作つてほしい」という依頼をきっかけに保冷倉庫の開発に取り組んだ。平塚社長は「住宅建築で追求してきた温度管理の技術を生かせた」と振り返る。「木冷蔵」は、住宅用の空調と独自開発した機器を用いて、6~50℃の範囲で倉庫内の温度を一定に保つ。断熱材と木材を組み合わせ、高い断熱性能と施工のしやすさを両立し、木材の見た目の温かみも生かした。最大の特徴は、消費電力と導入コストの低さ。保冷庫専用の空調を使わないため、一般的な保冷庫と比較した場合、6~10月の電力使用量を7~8割ほど抑制できる。



農作物の保管などに使われる定温倉庫「木冷蔵」=ひらつか建築提供

木材や竹を材料にした新素材、セルロースナノファイバー(CNF)。この素材を用いたスポーツシューズが今年、発売された。従来品より軽量化と強度アップを実現させたとい

う。百万分の1^ミの単位まで纖維を細かくし、樹脂を練り込んでできるCNFは熱によ

る変形が少ない、表面積が広く脱臭効果が高いなど、さまざまな特性を兼ね備えた「夢の素材」。音響に優れたスピーカーや自動車や建築の部材、化粧品、電子関連など、多用途に導入されつつある。

京都市産業技術研究所は、2005年から京都大との共同研究で研究開発に取り組み、実用化へ貢献してきた。16年には京都大に試験プラントが完成、原材料から一気にCNFを製造する工程を開発した。「CNFはここにきて急速に実用化が進んできた」と北川和男・研究フェロー(64)は手応えを語る。

木武彦社長(73)は「世界で唯一の技術だと胸を張る」。